



日本のものづくり哲学は、携わるひとりひとりの日常と内側からにじみ出るもの。

■企業訪問やインターンシップはどうでしたか？

[グエン]：すごく良くしてもらいました。橋梁や道路など、いろいろな現場に連れて行ってもらって、そのたびに詳しく説明もしてもらいました。食事にも連れて行ってくれたり、仕事面でもプライベートでも本当にいい勉強になったし、楽しかった！

[ビジャヤバラ]：日本の会社ではどうやって仕事をしているのか、実際に目で見る事ができました。設計の様子や、現場を見ることができたのも良かったのですが、一番勉強になったのはやっぱり、日本の製造業で人々が働く姿勢です。「安全第一！指差して行こう！」とか「朝のラジオ体操」とか…。

[ヘルナンデス][グエン]：そうそう！ラジオ体操！驚いたよね！（一斉にラジオ体操や指差し点検のマネ）

[ビジャヤバラ]：ラジオ体操も指差し点検も、日本の会社では「心を揃える」ことを大切にしているからだと学びました。朝会で、その日の目標や計画を必ず共有するでしょう？口に出すことで目的を明確にして、それから心を揃えて「さあ、働こう！」ってそれぞれが仕事にとりかかる。

[ヘルナンデス]：誰かに監視されているわけでもないのに、きちんと皆がルールを守って作業を行う。その結果、効率が良い。

[ビジャヤバラ]：日本製品の高いクオリティは、そういう日常の中から作り出されるんだと思う。誰かに命令されるからではなくて、造る人ひとりひとりの内側からにじみ出てくるもの。日本製品の素晴らしさは子供の時から知っていますが、ものづくりの現場を見たことで、その理由がわかった気がします。

[ヘルナンデス]：ほくは、製造でのレポートの細かさに驚きました。日報、週報、月報と順を追って進捗を提出する。つまり、何か問題があっても過去に遡って原因を究明できるという

うこと。さらにその記録があれば、予測もできる。日本のものづくりは、品質、サービスともに素晴らしいことで有名ですが、それを支えているのは背後のこういう細やかな手順なんだなと納得しました。

[ビジャヤバラ]：細やかな手順を皆がきちんと意識して守り、それが蓄積されていくことで、より素晴らしい製品へと結実する。日本のものづくりの哲学って、そこにあるのかなって。

[ヘルナンデス]：ほくも同じ意見。日本製品がああクオリティを出せるのは、ひとりひとりのものづくりへのスタンダード（基準・尺度）がしっかりしているから。そこが、日本のものづくり哲学なんだと思う。

[ビジャヤバラ]：一定のルールや原理に従っているんだけど、誰かにやらされているんじゃないって、日常に溶け込んでいるんだよね。元々溶け込んでいたのか、または溶け込むように工夫されているのかもしれない。

[ヘルナンデス]：日本のものづくりのフィロソフィー＝日本文化のフィロソフィーなのかも。

[ビジャヤバラ]：とにかく「あ、ボスが来た！やばい！」とか、そういう感じじゃ、ないもんね！（笑）



（※取材は、英語及び日本語で実施されました。）

Hernández Navarro Luis Enrique

ヘルナンデス・ルイス (31才)
■出身国:メキシコ
■出身校:グアナファト大学
■現在の学部:大学院 工学研究科 機械システム工学専攻
■研究内容:炭素繊維強化プラスチックの衝撃特性について
■趣味は県内あちこちを友達と旅すること。

Vijayabalan Harishraja

ビジャヤ balan・ハリシュラジャ (23才)
■出身国:インド
■出身校:アンナ大学
■現在の学部:大学院 工学研究科 機械システム工学専攻
■研究内容:熱伝導銅グラファイト複合材の開発
■日本のアニメが大好き。「ONE PIECE」の大ファン。

Nguyen Van Son

グエン・バン・ソン (24才)
■出身国:ベトナム
■出身校:交通技術大学
■現在の学部:大学院 工学研究科 社会基盤環境工学専攻
■研究内容:早強ボルトランドセメントを使ったセメント改良土の開発
■インターンシップで親切にしてもらったことに、感動。

Thavorn Rittanupap

タボン・リタヌパップ (23才)
■出身国:タイ
■出身校:チュラロンコン大学
■現在の学部:大学院 工学研究科 機械システム工学専攻
■研究内容:熱伝導銅グラファイト複合材の開発
■日本のアニメが大好き。「ドラえもん」の大ファン。

広島県ものづくりグローバル人材育成協議会 NEW POWER 「座談会」

『ドラえもん』を現実にする国で見た、規律と集中力。

■日本での留学生活はどうですか？

[ヘルナンデス]：日本の製造業で働いてみたくて留学を決めました。大学院で勉強しているだけでもメキシコとは全然違って驚きました。仕事や勉強にはさっと集中して、休憩時間を引きずらない。スケジュールがきちんと区切られていて、皆がそれを尊重して従っている。初めはちょっと驚きましたね。

[ビジャヤバラ]：その通り！ほくの国でも、何かに取り組む時間になってもペラペラおしゃべりしている人は多いよ（笑）。日本ではそれがありません。すごく時間に厳格で、ほくも最初は驚きました。

[グエン]：大学院に入ったばかりの時、Wi-Fiのことを聞きたいのに研究室の皆が無言であまりにも集中してて、声がかげられなかったことも（笑）。でも、それに気がついた先輩たちが何でも教えてくれました。課題を解決する必要があるときは徹底的に議論したり、メリハリがきいていますね。

[ビジャヤバラ]：研究が窮地に陥れば陥るほどすごくコミュニケーションをとるから、そこで絆が芽ばえるよね。「毎日進歩することが大切」って先生から言われた言葉も、心に残っています。

[タボン]：ほくにとって日本は、大好きな漫画『ドラえもん』を現実にするすごい国。エンジニアリングを勉強するのに

最適な国のひとつで学んでいるのは本当に幸運だと思っています。日本での研究では、実験の計画や結果に関する「報告」が厳密で、これが日本の技術力に還元されているんだなと感じました。量が多いので、夜までかかってしまうけれど…（笑）。

[ヘルナンデス]：時間厳守にせよ報告にせよ、日本で生まれ育ったら、それがルールとして自然に身につくんだと思います。小さな子がみんな黄色い帽子をかぶって整列して学校に行く国なもの！（笑）暗黙の了解がわからなくて戸惑う時もあったけれど、今では随分わかるようになりました。

[グエン]：日本では、基礎研究に重点を置くのも大きな違いですね。技術大国の日本で、まずは基礎研究から、というのは予想外でした。



広島企業の世界進出を支えたい！！

■広島企業に就職した後の、夢を教えてください。

[タボン]：日本のものづくりを学びながら、スキルを磨いていきたいです。システムに技術…いろいろなことを吸収して、仕事に活かしていきたいです。それから、休日には日本全国を旅行して全都道府県を制覇したい！（笑）

[ヘルナンデス]：ほくは、長く働いて、それから海外支社の立ち上げとかに関わってみたいです。言葉の面でもサポートできるし、新しい国へどんどん出て行って欲しい。

[ビジャヤバラ]：ほくたちも手伝うから、広島企業にも世界へ挑戦して欲しいです。アメリカのマーケットにも、進出し

て欲しいな。
[グエン]：日本語をもっと上手になって、「企業人」としてしっかり働きたいですね。将来は博士号も取りたいです。あ、でもそうしたら仕事をやめなくてはいけない…。

[高品]：働きながら博士号を取ることができる制度もありますよ。会社でデータを収集して、それをもとに論文を書いたり、学費をサポートしてくれるシステムがある会社もある。

[グエン]：そんな制度があるんですか！グッドニュースです（笑）